

推薦調書（実装部門）

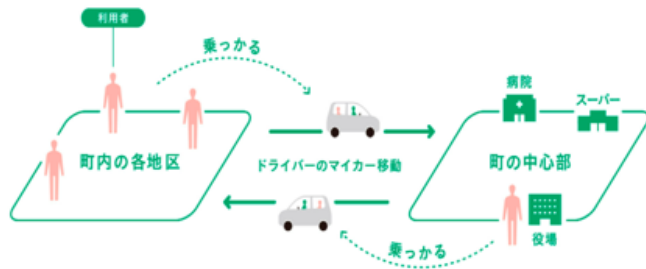
表彰区分	町・村	推薦都道府県	富山県
地方公共団体名	朝日町		
取組名称	マイカーを活用した共助型公共交通 ノッカルあさひまち		
連携自治体、企業、団体等	富山県朝日町、(株)博報堂、(有)黒東自動車商会		
デジタルを活用した取組の概要 (デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容)	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 交通
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】 住民同士の助け合いの気持ちをデジタルによって可視化し、ドライバーの外出予定と利用者の移動ニーズをマッチングする。住民のマイカー移動を活用し、外出促進／くらしの質向上を図る朝日町の新しい公共交通サービス。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】 高齢化の進展とそれに伴う運転免許返納者数の増加により、公共交通ニーズは一層高まる中、民間バス路線は深刻な人口減少と運転手不足によって相次いで廃止。既存のコミュニティバスとタクシーのみでは十分な移動需要に応えられず、利用ニーズに適した移動手段確保は長らく地域の重要課題として位置付けられていた。</p> <p>最小限の財政コスト・既存資源の活用を前提に新たな移動サービスを模索する中、全国トップレベルの自家用車依存度を逆手に取った〈マイカー乗り合い〉という発想に辿り着く。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】 住民には古くから地方特有の互助精神が根付き、“ついで送迎”の原型は形成されていたが、乗る側には「無償送迎への気兼ね」、乗せる側には「事故への懸念」と、双方に心理的ハードルを抱えているのが実情だった。</p> <p>この根底にある助け合いの気持ちをデジタルによって具現化。令和元年度にドライバーの外出予定（マイカーの余白）と移動ニーズをマッチングさせる仕組み〈ノッカルあさひまち〉を構築し、住民同士の共助で成り立つ新しいモビリティサービスとして始動した。</p> <p>14ヶ月の実証実験を経て、令和3年10月にはコミュニティバスと並ぶ朝日町の正式な公共交通サービスに移行。移動の選択肢が充足したことで町内の移動総量が増加し、既存交通+αとして令和3年度に828人（10月以降）が本サービスを利用。外出機会創出に起因する町の賑わいづくり、コミュニティ活性化にも寄与している。</p>		
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	<p>【取り組みのアウトプット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス運行本数：3年度 10,492回（43回×244日） ・ノッカルあさひまち設定本数：3年度（10月以降）10,893回 <p>21,385回</p> <p>【取り組みのアウトカム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用者数：元年度 27,841人、2年度 19,929人、3年度 20,999人 <p>※3年度末で町内唯一の高校が廃校→マイナス要素がある中で利用増を実現</p>		

<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民がドライバーとなり、車両は住民のマイカーを使用することで、人的リソースと物的コストを最小限に抑えた仕組み。 ・(株)博報堂の参画によってプロフェッショナルなIT人材活用が可能となり、デジタルに不慣れな町民も使いやすいUI/UX設計を実現した。また、保守管理業務を同事業者へ委託し、サービスの安定性を確保している。 ・地元交通事業者である(有)黒東自動車商会へ運行管理/予約管理を委託することで、民業との共栄を図りながら安全・安心な事業運営を実現している。 ・本取組におけるデジタル活用では、ステークホルダー別に最適なアプローチ手法を採用。交通事業者向けの運行管理システム(WE Bブラウザ)、ドライバー向けのスマートフォン専用アプリ、ユーザー向けにはLINE予約と、各者に馴染みやすいよう創意工夫している。LINE活用の背景には、コミュニケーションツールとしての浸透性と開発コストの低減を図る狙いがある。 ・“誰一人取り残さない”視点から、バックエンドはシステムによって効率化/最適化を図りつつ、対ユーザーにおいては電話予約も採用するなど、あえて完全デジタル化を強要していない。 ・ドライバー負荷軽減を図るために事前予約制を採用。定期的な外出予定を基本シフトとし、予約があった場合のみ運行が発生する。専用アプリ上で便単位の運行可否も申告できる仕組みで、都合が悪い場合は別のドライバーへ代理運行を依頼できる機能も備えており、負担なく参画できるよう工夫している。
<p>今後の展望</p>	<p>外出促進による移動の活発化/地域コミュニティ活性化を実現するには、他の移動サービスを含めた交通全体のプランニングが求められ、それを強力かつ持続的に推し進めるべく、令和4年度中に地域公共交通計画を策定することとしている。策定にあたっては、町内の各種団体や交通事業者のほか、(株)博報堂をはじめとした外部プレイヤーとも連携し、将来ニーズを見据えた新たな時代の交通計画モデルを目指していく。</p> <p>また、本取組におけるデジタルを用いた“共助のカタチ化”は、交通分野に限らず地域の多様な課題解決への糸口となる。健康・商業・子育て・エネルギーなどの町が抱える様々な課題に対し、共創DXによって解決プロセスを変革させ、単なるソリューションに留まらず新たな価値創造へと繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年6月：(株)博報堂と移動課題解決に向けた連携協定締結 ・令和3年10月：(株)博報堂とDXに関わる連携協定締結 ・令和4年4月：官民連携DX推進部署「みんなで未来!課」を庁内に創設

マイカーを活用した共助型公共交通 ノッカルあさひまち

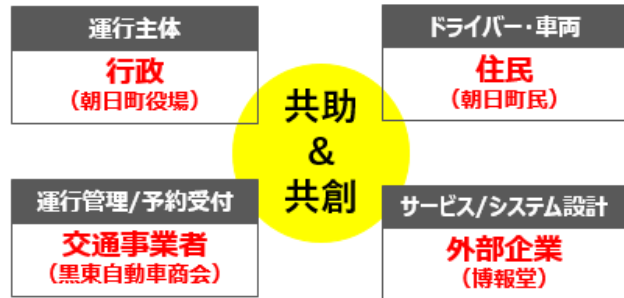
サービスコンセプト

住民ドライバーの普段のマイカーでのおでかけに、予約をして「のっかる」ことで目的地まで移動できる、
住民同士の助け合いの気持ちを形にした公共交通



サービスにおける役割

移動の課題を持続的に解決するために、行政が一方的に提供するのではなく、住民も参加し、地域内外の企業と連携して行く、**共助・共創型の公共サービス**



ノッカル

あさひまち

使用システム

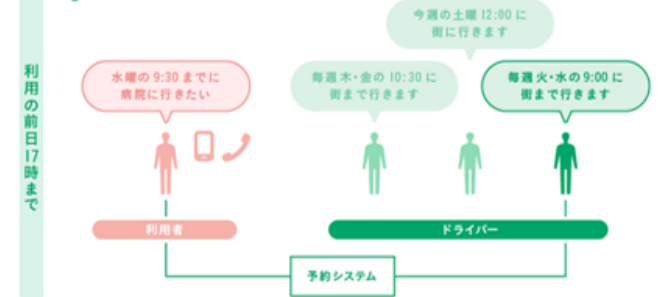
ドライバーと利用者をマッチングさせるための運行管理システムを使用。ドライバーは専用アプリで運行情報を把握し、**利用者はLINEで予約が可能。**



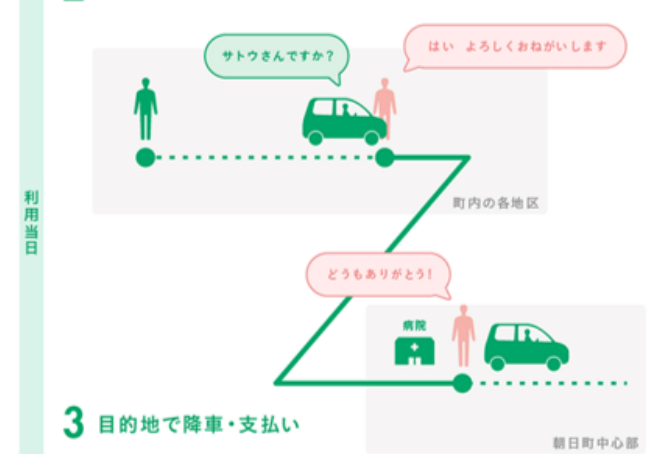
利用方法

ドライバーの予定をシステムに登録し、利用者がLINEか電話で前日17時までに予約。利用料は1回600円。

1 電話もしくはWEBで乗車予約



2 最寄りの指定乗降場所で乗車



3 目的地で降車・支払い